

道立高校と地域クラブから始める 『運動部活動改革』

NPO法人幕別札内スポーツクラブ

&

北海道幕別清陵高等学校

次年度からの動き & 将来像

諸問題の解決



部活の選択肢の幅…運動不足…

送迎…バスの利用法…

労働時間…働き方改革…

経費…人材不足…

「生徒全員」 が 「クラブ会員」 ⇒ 会費納入

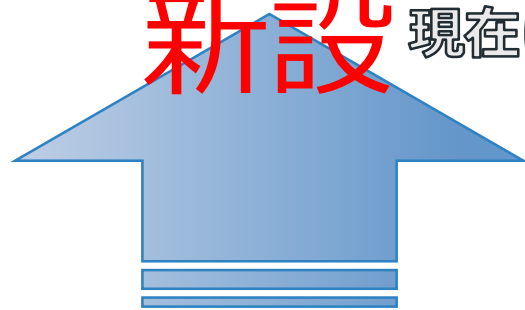
「教職員」は希望者が 「クラブスタッフ」に

次のステージ

幼児～小学～中学～高校
地域全体のスタイルへ

北海道幕別清陵高等学校

新設 現在は1・2年生のみ



統合

私立
紅陵高等学校

公立
北海道幕別
高等学校

3年生のみ

事業の概要（幕別）

【目的】

町内唯一の高等学校の運動部活動において、
総合型スポーツクラブとの連携を通し、

☆ 「地域人材の効果的な活用」

☆ 「地域一体となった新たな運動部活動のあり方」

について調査・実践を行う。



「地域全体で生徒のスポーツ活動を支える体制づくりの構築」

【達成目標】

既存部活動

①「幼小中高等学校一貫指導体制の構築」～「陸上」を切り口に

高校のみならず、中学校関係者とも連携。

地域全体で、12年間一貫した指導体制の構築を目指す



クラブスタッフ等の外部人材による指導。

高校陸上部と小学校陸上スクールを対象として年間20回実施し、課題と効果を検証する。

他の種目へ広げる

【達成目標】

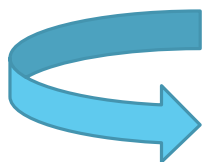
②「高校生が自ら企画運営。多世代が参加する新たな部活動創設」

様々な要因で運動部活動に所属していなかったり、
所属はあるが、さらに活動を広げたい生徒を中心とした活動



《企画運営》生徒が自主的に行う。

《顧問》 ・コーディネーターあるいはファシリテーター
・危機管理者 ・生徒の活動の支援



地域の誰もが参加できる多世代型に



具体的な取組（今年度はスポーツ庁委託費を活用）

- ①プロジェクトミーティングの開催 《道内SC関係/高校関係者/民間業者等》
- ②高校陸上部とクラブ陸上チームの定期的な合同練習実施 《毎週木曜日》
- ③高校生とクラブスタッフによる、地域でのスポーツイベントの開催
- ④高校生自ら企画運営の多世代型運動部活動の創設
《週1回程度》 ⇒生徒の意向
- ⑤専門家による地域向けシンポジウム 《2月13日予定》
- ⑥先進地視察

現在の様子

新しい運動部活動

12月、高校の職員会議での承認を受け、スタート！

新しい運動部活動をつくろう！ 2020

2020.12.22

1. 知っている運動部活動
2. 部活動の魅力
3. 運動部活動に入らなかった理由
4. そもそも部活動って何？？

日本の学校教育の「部活動」には定義があり、
「部活動は、学校教育活動の一環として、スポーツや文化、学問等に興味と関心をもつ同好の生徒が、
教職員の指導の下に、主に放課後などにおいて「**自発的・自主的**」に行う活動」とされている。

幕別清陵高校生が自ら企画運営する『多世代型運動部活動』を創設

5. では、新しい部活動をつくってみよう！！

《企画運営》 幕別清陵高校生徒
《顧問》 幕別清陵高校教職員
NPO法人幕別札幌内スポーツクラブスタッフ

《対象》 ・幕別清陵高校生徒
・

【場所】

【頻度】

【内容】

【顧問】

【名称】

【その他】

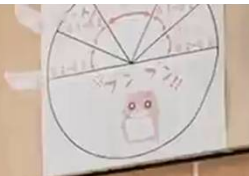








20本之びょう
たのしみ
3級合格
元々く
みはな
3級合格



フーニ

本代表 雅
日本代表 雅

幕別 Trampoline club
フーニ
GO FOR IT!



FUNTRAMP

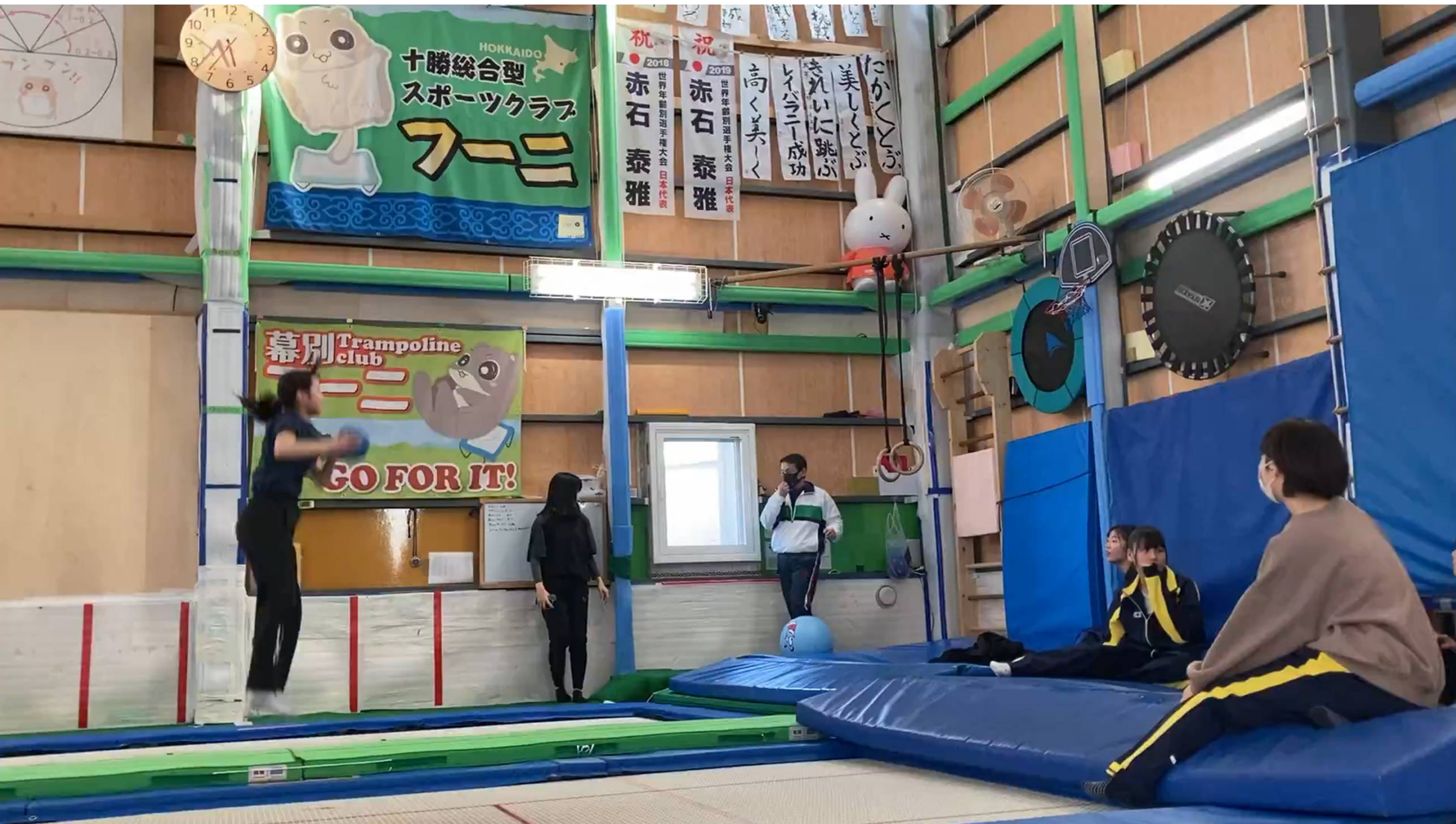
ULTIMATE



幕別 Trampoline club
フーニ
GO FOR IT!

白板上の文字 (Whiteboard text):
不明 (Unknown)
不明 (Unknown)
不明 (Unknown)
不明 (Unknown)
不明 (Unknown)







現在の様子

陸上部と小学生クラブチーム

10月より、クラブスタッフが本格的に指導支援

合同練習

(高校生も、小学生に「伝える」ことで自ら学ぶ機会に)



達成の為の手段として、目標設定シートと練習日誌にチャレンジを！
12月10日には、オンラインを使用して現役アスリートの方から練習日誌の意義を説明。



来シーズンに向けての目的・目標を明確に持ち始める生徒が増えてきました！



短距離は、走りに繋がる
動作トレーニング



投擲は、軽い重量を使用した技術練習



幕別清陵高校とクラブの連携 (その他)

受け付け業務や掲示物の作製などを担う幕別清陵高校の生徒。左から三品さん、下山さん、三浦さん、山岸さん

幕別の札内スポーツセンター

受け付けに清陵高校生4人

若い発想で展示物作成も

【幕別】今年度からNPO法人幕別札内スポーツクラブが指定管理する札内スポーツセンターで、幕別清陵高校の生徒4人がアルバイトとして受け付けや清掃業務を担っている。生徒たちの若い発想を生かし施設を活性化したいNPO側と、地域貢献を望む高校側の思いが一致した。来年度からは高校生による講座開催なども検討し、連携を強化したい考え。

来年度から講座開催検討



同NPOは同センターと町農業者トレーニングセンターの2施設の指定管理を担う。運営を任せられて以降、施設内の展示物を工夫したり、音楽を流すなどして利用者から好評を得ている。

アルバイトに励むのは三浦れんさん(15)、下山日菜子さん(16)、三品桜音さん(16)、山岸健太さん(16)。放課後や休日の4〜5時間、利用者の受け付けや用具の点検、清掃、健康講座のサポートなどに当たる。施設内の張り紙の作製にも挑戦している。

最も早い9月からアルバイトを始めた三浦さんは「違う年齢の人と話すのは先生くらいだったけれど、いろんな人と話せて楽しい。掃除していると『頑張つてね』と声をかけてもらえる」と笑顔を見せ、山岸さんも「接客は苦手だけれど、少しずつコミュニケーションが取れるようになってきた」と自身の成長を感じている。

下山さんと三品さんは以前からトレーニングなどで同施設を利用していた。下山さんは「以前利用していたときには、雰囲気が暗いと感じることがあった」とし、そうした経験から「利用者には、明るく接して

ます」と笑う。今月から始めたばかりの三品さんは美容室でのアルバイトとの掛け持ちに。「美容室の方に『社会にもまれておいで』と勧められた。スポーツが好きなので楽しみ」と張り切る。

同NPOの小田新紀クラブマネジャーは「利用者の皆さんも高校生の姿に癒やされ、元気をもらっている。これからも連携を深めていければ」と期待している。(澤村真理子)

指定管理施設での 人材活用・育成 (アルバイト)

学校からの推薦者

- ・ 受付
- ・ 展示物作成
- ・ SNS発信
- ・ 連絡協議会や研修会へ参加

など





地域旬報

公私統合道立幕別清陵高

「頼られる存在」

「大丈夫ですよ。一緒に頑張りましたよ。うね」。3日に十勝管内幕別町で行われた健康講座。道立幕別清陵高の生徒が声を掛けると、シヨギングや腕立て伏せを組み合わせたトレーニングで息を切らしていた受講者のお年寄りらの表情がほころんだ。

生徒参加好評

講座には、同校の「スポーツ&ヘルス」コースでトレーニング理論や管理栄養学を学ぶ2年生が授業の1環で参加した。NPO法人「幕別札内スポーツクラブ



(幕別)と連携し、週2回ほど運営に携わっている。授業で学んだことの実践に加え、住民と交流するためだ。スポーツトレーナーを目指す中西裕貴さん(16)は

「講師は雰囲気づくりにも気を配っていた。学校では学べないことがたくさんある」と話した。生徒の参加は受講者にも好評だ。町内の柏崎八重子

さん(76)は「若い人からエネルギーをもらえる」。9月ごろからは生徒が運動メニューを考え、講師も務める予定という。昨年春に開校した同校は、地域との信頼関係を築くため、生徒会を中心に祭

幕別町内の施設で行われた健康講座で、地域住民とともに体を動かす幕別清陵高の生徒(右) 井上浩明撮影

支援も手厚く 一方で、全学級に2人担任制を導入。きめ細かい指導で学力の底上げを図り、生活面でも生徒一人一人に目配りする。手厚い生徒支援は、幕別清陵への統合に伴い来年3月で閉校する道立幕別高の特長だ。幕別の進学、就職合わせた進路決定率は2011～18年度、8年連続で100%を達成。就職後も相談できる機会を設けるなど地域から評価されている。道教委が発表した20年度の公立高入試最終出願状況では、幕別清陵が十勝管内最高の1.5倍となった。

クラブ事業に、「スポーツ&ヘルスコース」の生徒の参画

- ・健康講座
- ・指導法研修 など

講座を生徒が企画運営へ

クラブ事業に、

「福祉コース」の
生徒の参画

- ・フレイル予防教室



【幕別】幕別町産のナガイモを使った「長いもお好み焼き大食い大会」が10日、町札内スポーツセンターで開かれた。管内から8チームが参戦し、食欲の秋ならではのイベントを楽しんだ。

新型コロナウイルスの影響でイベント中止が相次ぐ中、NPO幕別札内スポーツクラブと幕別清陵高校生

食べた
食べた
20 Kg
ナガイモ

幕別 お好み焼き大食い大会



キャベツも8玉
8チーム24人

「苦しかった…味は

徒会が地域活性化の一助に
と企画。JA幕別町がナガイモ20kgとキャベツ8玉を無償提供した。

1チーム3人で競技時間は45分。最初の15分はチーム全員でホットプレートでお好み焼きを作り、残り30分は交代で2人が焼き係となり、1人10分の持ち時間で順番に食べていった。アリーナを会場に、1回の対戦は4チームに限定するなど感染防止対策を取った。

最初は勢いよく口に運んでいた参加者たちも、終盤は一様に苦しい表情に。プレートのお好み焼きをホットプレートのふたでおおき、

お好み焼きの大食いにも挑む参加者（金野和彦撮影）

生徒会との
イベント企画

地域を盛り上げようと、
幕別産長いもを使った
「お好み焼き大食い大会！」

《主催》クラブ
《企画運営》生徒会



クラブの マイクロバス活用

- ・部活動送迎（文化部含む）
- ・学校説明会での中学生送迎
- ・授業体験学習での送迎
など

幕別清陵高の全生徒 スポーツクラブ会員に

教職員負担軽減
バス送迎も可に

【幕別】幕別清陵高校(澤田慎也校長)は新年度、全校生徒を総合型地域スポーツクラブ「幕別札内スポーツクラブ」の会員に登録する。教育活動における生徒の移動手段の確保や教員の長時間労働などの課題解決を図るとともに、地域で生徒のスポーツや文化活動を支える持続可能な体制づくりを目指す。

同校は2019年4月に開校し、今年4月で全3学年がそろそろ。クラブ会費は3年間で1人5000円(1・2年生は年間2000円、3年生は同1000円)で、幕別町から同校教育振興会への補助金を充てる。

クラブとの連携強化により、部活指導による教職員の長時間勤務の解消が期待されるほか、パークゴルフやスキー授業ではクラブスタッフが場所の予約や講師派遣の手配をし、学校の負担軽減につながる。

また、生徒がクラブ会員となることで、これまで課題だった部活動の大会や校外学習、地域でのボランティア活動などの際の移動手段として同クラブのバスによる送迎が可能となる。

一方、スタッフによる専門的指導などで協力するクラブ側は、ボランティアではなく、会費を納めてもらうことで持続可能な仕組みを整えていく。部活指導は

順次クラブに移行し、希望する教職員には勤務時間後にクラブスタッフとして、部活動や地域の小学生らの指導を担ってもらう。

将来的には運動部のほか、同クラブが窓口となって地域の人材を紹介し、生徒や地域の子どもたちの文化系活動の充実にもつなげたい考え。澤田校長は「課題を検証しながら一つの形をつくらせていきたい。できることから取り組んでいければ」と話している。

同クラブは今年度、スポーツ庁委託事業の「運動部活動改革プラン」に採択され、全道の教育・スポーツ関係者でつくるプロジェクトミーティングで、地域一体となった部活動の在り方などについて調査・実践している。(澤村真理子)